

Check

今月の栽培ポイント

8月

営農情報

詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231

世羅営農センター ☎0847-25-5029

尾道北営農センター ☎0848-29-9611

浦崎支店 ☎0848-73-3311

向島営農センター ☎0848-44-2106

御調支店 ☎0848-76-2242

因島営農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

水稲

9月に入ると多くの圃場で稲刈り作業がスタートします。刈取り適期を見定め、品質の良いお米を収穫しましょう。

また、早生以降の品種では、病害虫の被害にも注意してください。

【ウンカ類】

トビイロウンカは、梅雨時期に中国大陸から下層ジェット気流に乗り日本に飛来し、1〜3世代発生します。

水稻の茎から養分を吸汁し、稲の生育を弱らせ枯らしてしまいます。大発生す

ると広い面積の稲を枯らし、坪枯れ被害を発生させる重要害虫です。



▲トビイロウンカ



▲坪枯れ

【カメムシ類】

近年、全国的に「イネカメムシ」の被害が拡大しています。「イネカメムシ」は穂軸を吸汁し、不稔穂を発生させ、大きく収量を減少させます。

また、管内の南部地域において、「イネクロカメムシ」の発生も確認されています。「イネクロカメムシ」は茎葉を吸汁するため、激しい加害を受けると白穂等の発生につながります。

発生が確認された圃場では、出穂前後の防除にスタークルを含む薬剤で防除を行ってください。

「イネカメムシ」に関しては、管内での徹底した防除により発生密度の減少がみられますが、まだまだ全国的に見ても発生率が高い状況です。引き続き、定期防除・追加防除を実施してください。



▲イネカメムシ



▲イネクロカメムシ

【早期落水の防止】

落水時期が早すぎると、玄米肥大生長が抑えられ、収量や食味・品質の低下を招きます。落水時期の基準として（土壌条件・気象条件考慮）湿田では出穂後25〜30日、乾田では出穂後35日頃を目安にしましょう。

【刈取り作業】

刈取り期には、コンバインやバインダーによる事故が報告されています。機械を操作する方もサポートする方も安全確認を怠ることなく、事故防止を徹底しましょう。

【刈取りの目安】

適期にイネを刈取ることは品質向上の面で非常に重要です。

適期より早いと青米や未熟粒の増加に繋がります。

逆に、遅いと茶米や胴割粒の発生に繋がります。

成熟期は、多くの品種で出穂してから40日前後です。しかし、出穂期から成熟期までの期間は出穂後の天候がよければ早まり、気温が低ければ長びきます。品種によって幅はありますが、積算温度の目安として、950〜1,200℃前後とされています。

実際の圃場をよく観察し、緑色の籾の割合（青味粉率5〜10%）で判断していきましよう。

【乾燥・調整】

品質に直接影響しますので慎重に行っ

中晩柑
収穫時L以上になる基準
（しらぬひは2L）

単位：mm

時期	八朔	しらぬひ	はるみ	はるか
8月20日	60	57	45	46
8月30日	65	61	49	51

みかん
収穫時S以上になる基準

単位：mm

時期	早生	いしじ
8月20日	38	39
8月30日	42	42

【中晩柑類の仕上げ摘果】

大玉果実生産と正品率向上を目的に、仕上げ摘果を徹底しましょう。時期別肥大基準を参考に小玉果・傷果を摘果します。

柑橘

てください。刈取り直後の籾は温度が高く水分も多いので、刈取り後はできるだけ早く乾燥機に入れ、まずは通風乾燥で余熱や余分な水分を取り除きましょう。通風乾燥の後に火力乾燥に移りますが、急激な乾燥や過乾燥は、胴割米の発生に直結しやすいので慎重に行ってください。火力乾燥後はもう一度通風乾燥で余熱をとりましょう。

また、仕上げ後は水分計で仕上げり水分の確認をしましょう。

サビダニは8月の防除が一番重要となります。暑い時期ですが防除を徹底しましょう。

【中晩柑類の灌水】

過乾燥状態での灌水は裂果が多発します。灌水は定期的に実施しましょう。

しらぬひやはるみは、8月の灌水が酸の低い果実を作るために重要です。中晩柑類は、降雨がない場合、ホースで1樹あたり40ℓ以上灌水しましょう。使用できる水が少ない場合は灌漑機を使用し1樹あたり20ℓ程度灌水しましょう。

毎年しらぬひの糖度が低い園地は、9月はやや乾燥ぎみに管理しましょう。

【みかんの摘果】

連年結果樹では、果面がツルツとし光沢がでてくる時期(8月下旬から9月)から摘果すると糖度の高い果実生産が出来ます。果実肥大と果面を見ながら摘果時期を調整してください。

不作樹は次年度の着果過多を防ぐため、収穫前の樹上選果まで摘果は見合わせましょう。

連年結果樹では果実の肌を見ながら摘果時期を決定すると糖度の高いミカンを生産することが出来ます。



▲果実の肌が荒く摘果作業はまだ早い



▲果実が光沢をおびツルツとしてきたら摘果開始のサイン

【みかんの品質向上】

みかんは7月中旬～8月末までは乾燥ぎみに管理し、糖度の上昇を図ります。灌水は果実が早朝軟化していたら実施する程度にしましょう。

雨が多い場合は次の対策を実施しましょう。

◆フィガロン散布

雨が多く糖度が上がりにくい場合は、フィガロン乳剤を散布します。散布後約20日間は根からの水分吸収を抑制します。(樹勢が弱るので年間2回までの使用に留めてください)

◆タイベックマルチの被覆

全面被覆することにより効果が高まります。着色促進効果を狙う場合は、収穫30日前までには被覆しましょう。

◆カルビタPの散布

8～10月にかけて3回以上散布することにより浮皮軽減・果皮強化を図ることが出来ます。

【病害虫防除】

◆黒点病

散布間隔は累積降雨250mmもしくは散布後30日です。遅れないように散布しましょう。

◆ミカンハダニ・サビダニ

8月、9月の防除が未実施の場合、甚大な被害がでると予想されます。ダニエモンフロアブルまたは、ダニゲッターフロ

アブルを丁寧に散布しましょう。

また、秋に気温が高くなる雨が少ないと9～10月にかけてサビダニが

発生することがあります。9月下旬頃にイオウフロアブルを散布しましょう。

イオウフロ

アブルは高温時に散布すると薬害が発生する恐れがあるので注意し



▲イオウフロアブルは高温時散布で薬害が発生することがあるので注意する28℃以下で散布する



▲サビダニ

◆カイガラムシ類

地球温暖化に伴い、カイガラムシが年々増加傾向にあります。防除の際は、薬剤が幹にもかかるように散布しましょう。

◆極早生の腐敗防止剤散布とアザミウマ防除

収穫前には必ず腐敗防止剤を散布しましょう。また、近年アザミウマ被害が多くなっていますので園地をよく観察し(果実と果実がくっついた場所)発生が見られる場合は、早急に防除しましょう。

◆かいう病

台風襲来時は、事前に薬剤を散布しましょう。併せて夏秋梢を処理し、かいう病の拡大を防ぎましょう。(再発の場合は、再度処理しましょう)特にレモンは必ず実施してください。

なお、かいう病に罹病した葉や枝は見つけたら除去しましょう。

◆チュウゴクアミカサハゴロモ

多発の場合はアブラムシと同じように排泄物にすす病が発生し、葉や果実が黒くなります。

対策については指導員にご相談ください。



▲チュウゴクアミカサハゴロモ幼虫



▲チュウゴクアミカサハゴロモ成虫



▲被害果

◆日焼け防止対策

日焼け果が多発する園地では、発生前にホワイトコート50倍を散布しましょう。



▲ホワイトコート散布で白くなり日焼けを防ぐ

【中晩柑類の初秋肥施用】

果実肥大促進のため、中晩柑類は9月上旬に初秋肥を施用します。基準量(元気200の場合10アールで6袋)を守って施用しましょう。また、中晩柑一発358を使用する場合は施肥量・施肥時期・平坦地での使用、河川への流出防止

を厳守しましょう。また、有機が含まれていない肥料なので堆肥などは積極的に投入しましょう。

【台風対策】

苗木や高接の支柱への結束を実施するとともに次の対策を実施しましょう。

商品名	9月上旬
広島フルーツ元気866	110kg/10a
BBフルーツ元気200	120kg/10a
中晩柑一発358	120kg/10a

◆かいよう病防除

レモン、ネーブル、はるみなどかいよう病に罹病しやすい品種は、台風襲来前にコサイド3000とフレフロンを混用散布もしくはクプロシールドを散布しましょう。台風襲来前に散布出来なかった場合は通過後散布しましょう。

◆海水浸水対策

海水が浸水した場合、石灰質資材を混和し多量の水を投入し除塩しましょう。石灰質資材は硫酸カルシウムの効果が高いです。

◆塩が葉に付着した場合

6時間以内に10アール当たり2トン以上の水で洗い流してください。

落葉果樹

【共通管理】

8月は高温乾燥で推移する傾向にあり

ます。暑い中での農作業になるので、体調管理には十分注意し、こまめな水分補給を行い熱中症にならないように注意しましょう。

【収穫】

収穫は果実温度の低い早朝に行い、適熟果の収穫を心がけ、商品として責任の持てる果実を出荷しましょう。出荷始めには栽培管理表を提出し、確認を受けてから出荷を始めてください。品質的にばらつきがなく、味や着色が良い高品質果実を生産し、消費者から信頼される産地を目指しましょう。特に、降雨が無く乾燥する場合には、乾燥による果粒軟化や取り遅れによる過熟果に注意しましょう。

【病害虫防除】

高温で多湿な条件が続くと病害が発生しやすくなってきましたので、防除は早めに行ってください。

ぶどう

【収穫が終了した園】

貯蔵養分を蓄えるために、葉を健全に保ちましょう。

収穫終了後すぐに、速効性の肥料を施用し、灌水を行って、樹勢の回復を図ってください。(S604を15kg/10アール) 灌水は、収穫終了後も定期的に行ってください。

収穫が終了したハウスは、ダニやカイ

ガラムシを発生させないためにも防除を行ってください。

【これから収穫を行なう園】

裂果対策は万全ですか？排水溝の整備や樹冠下のマルチング等を行って下さい。

着色期から収穫期にかけても水分は必要ですので、定期的に灌水を行ってください。

出荷始めには、担当者から熟度、酸抜け、食味などについてアドバイスを受けてください。

いちじく

収穫最盛期に入ります。果実温度の低い早朝に収穫しましょう。収穫する際は、果実を傷つけないように丁寧に採取しましょう。

◆病害虫防除

園内に腐敗果を放置していると、病害虫の感染源となります。こまめに園内を見回り、腐敗果は必ず園外に持ち出し処分しましょう。

◆灌水

先月同様に晴天が続く乾燥する場合、適宜灌水を行いましょう。

もも

収穫終了後、すぐにハモグリガ、ダニ類の防除を行ってください。

◆注意する病害虫

シンクイムシ類、カイガラムシ類、ハモグリガ、さび病



▲ハモグリガ

【秋季剪定】

秋季剪定は、2次伸長の発生が少なくなる9月中旬が適期です。葉が繁っている時期だと樹冠内部の日照を確認しやすいので、枝の整理を行いましょう。

日当たりが悪い所は枝が枯れ込み、結果枝が無くなってしまいます。

樹全体の枝へまんべんなく日光が当たるように秋季剪定を行いましょう。

乾燥が続く場合は灌水を行いましょう。

なし

8月上旬から9月にかけて出荷します。果皮色だけでなく地色も確認して収穫を行ってください。

【灌水】

なしの後期果実肥大は灌水次第です。収穫前の果実肥大期には、乾燥しないようにしっかりと灌水を行ってください。

【病害虫防除】

黒星病に注意し防除を行ってください。晴天が続くようであれば、ダニやアブラムシの発生に注意が必要です。収穫前に黒星病とハダニ類を発生させないために、丁寧にたつぷりと防除を行ってください。

連日暑い日が続いています。熱中症に注意し農作業にあたりましょう。

夏本番の8月ですが、夏野菜から秋冬野菜への切り替え作業を行う時期となります。

【秋に播種・定植する野菜】

◆種まき

キャベツ、レタス、カブ、ダイコン、ニンジン、キヌサヤエンドウなど

◆定植

ばれいしょ、ラッキョウ、ブロッコリーなど

【秋植え野菜の栽培】

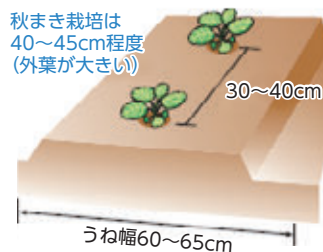
◆キャベツ

定植2週間前までに1㎡あたり堆肥3kg、苦土石灰100gを施用して深耕します。定植1週間前に基肥として、野菜有機189を1㎡当たり150g施用します。

うね幅は、

60～65cm程度で、株間30～40cmで植付けます。

あらかじめ苗と植穴にたっぷり灌水



しておきます。

追肥は、1回目は定植15日後ぐらいに中耕をかねて野菜有機129を1㎡当たり50g施用します。2回目の追肥は、外葉の生育が旺盛になり芯葉が立ち始めた頃におこないます。

球を上から抑えて固くしまつてきたら収穫適期です。

◆ポイント

植付け前後に、十分灌水してスムーズに活着させましょう。

結球開始期までに充実した外葉を育てましょう。

◆ダイコン

①播種期と収穫時期

・播種9月上旬、収穫11月中旬～12月中旬

・播種9月下旬、収穫12月下旬～1月下旬

播種の時期をずらして、収穫期を長く楽しみましょう。

②土づくり

深い耕土が必要です。完熟堆肥と石灰資材を早めに施用してよく耕しましょう。施用量の目安は、1㎡当たり完熟堆肥2kg、石灰資材100g程度とします。

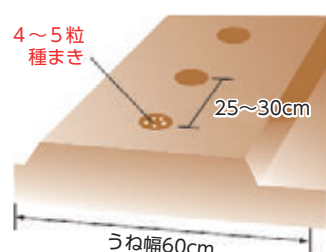
③元肥・畝立て

元肥として野菜有機189を1㎡当たり100g施用します。時期は植付けの1～2週間前、よく

耕して土と十分なじませておきます。

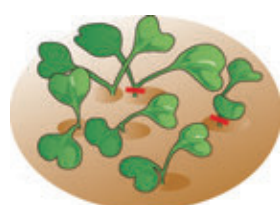
④播種

株間25～30cmで、一カ所4～5粒種を撒きます。

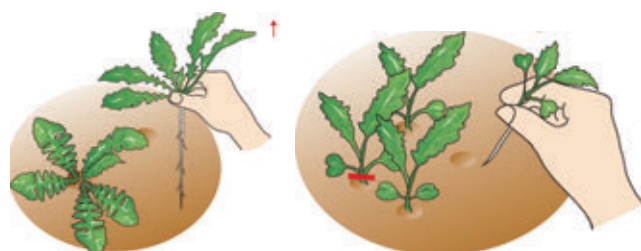


⑤間引き

1回目は子葉の頃、2回目は本葉3～4枚、3回目は本葉5～6枚の頃に行います。



1回目：子葉の頃、正ハート型のものを残す。



3回目：本葉5～6枚時に1本立ち

2回目：本葉3～4枚時に1カ所2本立ち

⑥追肥

追肥は、3回目の間引きが終わる頃に、畝の肩部に行います。

施用量は、野菜有機129を1㎡当たり30gを目安に行います。

株が安定しないときや台風の前等には、株元に軽く土寄せをしましょう。

⑦収穫

根の直径が7cm程度になると収穫できます。

◆ポイント

土づくり時によく耕して十分な耕土(50cm以上)を確保しましょう。

本葉5～6枚までの過乾燥、過湿に注意しましょう。